

「Login」テーマに

加藤憲グループ合同見本市 新たな会社増やし成長へ

【メイン】加藤憲グループ合同見本市(加藤憲グループ)は、6月20日に東京都立産業貿易センター浜松町4・5階で、グループ7社合同の見本市「トレ・たてキャッチ2024」を開催した。

事業会社グループ7社(加藤憲G.R.S.、加藤憲ソリューション、富士文具、西日本リテールサポート、九州リテールサポート、中部キスバ、コクヨ東海販売)と加藤憲HDの首脳陣が勢揃いする中、開場前に開会式を行い、グループを代表して加藤憲社長が「今期は年間予算を上回し798億円、前年比99.5%、経常利益4億1000万円を立上げた。弊社は9月決算なので、本日は第3四半期が終る6月末までの予想をお話しする。グループ全体の売上は621億円、予算比は101%と、好調に推移。何よ

グループ7社合同見本市の会場

比・前年比ともに101%と順調に推移している。経常利益は去る2月の見本市では1億4000万円ほど現時点で上回っているとお伝えしたが、その後順調に推移して6月累計で2億5000万円上回っている。前年は当グループとして過去最高の経常利益6億9000万円を出したが、それを大きく上回る予想をしている。さて、各事業会社についてお伝えする。まずは加藤憲ソリューション。変わらず好調で、売上は前年比110%で経常利益率も6%弱を出している。また子会社としてDXコンサルのベンデックスも営業を開始し、グループ内でITの企業になりつつある。コクヨ東海は昨年、文具事業を中部キスバに移管した初年度で苦戦したが、今期売上は前年比130%で、経常利益も大幅に増え上回っている。その中部キスバも初年度は苦戦したものの2年目からは苦戦しなくなり、好調に推移。何よ

りIT人材は目標である前年比135%を達成している。G.R.Sは、店頭で文具が売れない厳しい時代と言われる中、G.R.S自体は好調に推移している。インバウンド需要の効果が大きい小売業や文具を一度活性化しようとしている本屋、百貨店等に向けてしっかりサポートさせて頂いて感謝。G.R.S全体では前年比100%となり、経常利益も昨年を上回っている。富士文具は、以前は残念ながら大きな赤字会社であったが、かなり利益率が改善し、経常利益の利益率1%を上回って今期を終えようとしている。西日本リテールサポート、九州リテールサポートの2社は当グループ入りしてまだ短く、再建途中であるが、社員が一丸となって

邁進しており、あと2・3年で黒字化し中国・九州地区の小売業をサポートすることを目指している。小売業のBHSもお陰様で順調に推移している。文房具は消耗品の時代から嗜好品の時代に変わったことを受け、ディスプレイを軸に、1品1品を大事にユーザーに届けるというコンセプトに変更した。それにより大幅に利益改善して黒字事業へと転換した。今期は、所沢と三好(愛知県)に2店舗を出し、更に多くのユーザー様へ商品をお届けできるようにする。さて、メー

カ部門・ワールドクラブトであるが、約3年前までは黒字化の計画で推移していたが、昨今の為替の影響が大きくなり、全体的に赤字に陥っている。各事業会社は「読み書き・そろばん・文房具」に集約され、人々が学んで、働いて、考える」を小売業様、また直接ユーザー様にサポートしていくグループである。今後は時代は変わるが、人材をより活性化して「読み書き・そろばん・文房具」で、共にシナジーを持って新しい新たな会社も増やし成長していきたい」と挨拶。出席者代表でトン鉛筆・小

7月27日、28日に手書き道具市

株式会社竹田事務機(竹田登社長、京都市)は、7月27日、28日、山崎直結のラクト山科ショッピングセンター1階アトリウムにて、手書き道具市を開催する。

無印良品 京都山科で不定期開催の「つながる市」特別版としての合同企画で、出店社と無印良品のアイテムを使ったアイデア企画、限定品など、手書きや

文房具の持つ魅力を凝縮した2日間にしたとして、開催時間は27日が正午、午後7時、28日は午前10時、午後4時。

イロは衣・食・住にまつわるこれからのライフスタイルを提案する商談見本市で、上質で付加価値の高い家具、インテリア雑貨やテーブルウェアなどを求める来場者へ向けて、デザインにこだわった新しいライフスタイル提案している。

毎年好評のアトリウム特別企画では「ニュー・ローカル」と題し、日本・海外それぞれの土地に根ざした技術・文化・素材と斬新なデザインの融合で生まれた製品を紹介。このほか、さまざまな分野で活動する企業や個人が共同でプロダクトやサービスを開発し、

市場へ参入するための機会を提供する「Meet Design」や、ものづくりの背景を伝えるワークショップと、クラフトビ

川昇弘社長が祝辞を贈って取引をスタートした。今回は「Login」新しい情報の発信と取集繋がり強化をテーマに、2フロアに通常の小間と大型ブースの構成で展開。

会場は、4階受付を入り、1階は「改めて見直そう」として「Let's DIG UP」と名付けられたコーナー、そして例年好評を得ていた売場提案コーナーの「リテールサポート・コンシェルジュ」ゾーンでそれぞれの商品群をしっかりと理論ハネ

等も設置してアピール。配布された会場レイアウト案内にはQRコードをスキャンし、イチオシ商品がすぐインテリアライフスタイルを提案する商談見本市。上質で付加価値の高い家具、インテリア雑貨やテーブルウェアなどを求める来場者へ向けた、デザインにこだわった新しいライフスタイルを提案している。買付け権限・影響力を持つバイヤーが全体の71・8%を占める。

インテリアライフスタイルでは2025年度開催の開催者を募集している。会期は6月18・20日、東京ビッグサイト東展示棟で開催。出展申込締切りは12月16日。

1万6577人が来場

インテリアライフスタイル 竹尾、サンスター文具が出展

メッセフランクフルトジャパン株式会社(梶原靖志社長、東京都)は、6月12・14日、東京ビッグサイトで、これからのライフスタイルマーケットを提案するための国際見本市「インテリアライフスタイル」を開催、3日間で1万6577人が来場した。

今回は、20カ国・地域から507社(国内461社、海外46社)が出展、このうち、業界関連では竹尾、サンスター文具が出展した。インテリアライフスタイル

開催時間は27日が正午、午後7時、28日は午前10時、午後4時。

イロは衣・食・住にまつわるこれからのライフスタイルを提案する商談見本市で、上質で付加価値の高い家具、インテリア雑貨やテーブルウェアなどを求める来場者へ向けて、デザインにこだわった新しいライフスタイル提案している。

毎年好評のアトリウム特別企画では「ニュー・ローカル」と題し、日本・海外それぞれの土地に根ざした技術・文化・素材と斬新なデザインの融合で生まれた製品を紹介。このほか、さまざまな分野で活動する企業や個人が共同でプロダクトやサービスを開発し、

川昇弘社長が祝辞を贈って取引をスタートした。今回は「Login」新しい情報の発信と取集繋がり強化をテーマに、2フロアに通常の小間と大型ブースの構成で展開。

会場は、4階受付を入り、1階は「改めて見直そう」として「Let's DIG UP」と名付けられたコーナー、そして例年好評を得ていた売場提案コーナーの「リテールサポート・コンシェルジュ」ゾーンでそれぞれの商品群をしっかりと理論ハネ

等も設置してアピール。配布された会場レイアウト案内にはQRコードをスキャンし、イチオシ商品がすぐインテリアライフスタイルを提案する商談見本市。上質で付加価値の高い家具、インテリア雑貨やテーブルウェアなどを求める来場者へ向けた、デザインにこだわった新しいライフスタイルを提案している。買付け権限・影響力を持つバイヤーが全体の71・8%を占める。

インテリアライフスタイルでは2025年度開催の開催者を募集している。会期は6月18・20日、東京ビッグサイト東展示棟で開催。出展申込締切りは12月16日。

検証報告を発表

株式会社サクラクレパス(西村彦四郎社長、大阪市)は、3月2、3日に、熊本大学で行われた日本教育工学会2024年春季全国大会で、玉川大学教育学部、ICT教育研究センター・山田徹志准教授との共同研究成果として、「生成AI

びを通じた学びの姿(主体的な育ちの状態)の可視化に向けた研究では、成果の一つとして、絵本の読み聞かせ参加時の子どもの視線の時間変化から、人による教材利用、デジタル型教材利用の双方の場合において、強い関心や飽きという特定の状態を推定できる可能性が示唆された。

また、視線のバラつきや振幅の違いと読み聞かせ後の質向上支援にも繋がる。

「検証報告」について発表した。現在、同社は大学などとの連携し、子どもたちの主体的な育ちの状態の可視化に向けた基礎研究を行っている。行動センシングとAI技術を活用し、子どもの遊びを通じた学びの姿(主体的な育ちの状態)の可視化に向けた研究では、成果の一つとして、絵本の読み聞かせ参加時の子どもの視線の時間変化から、人による教材利用、デジタル型教材利用の双方の場合において、強い関心や飽きという特定の状態を推定できる可能性が示唆された。

「検証報告」について発表した。現在、同社は大学などとの連携し、子どもたちの主体的な育ちの状態の可視化に向けた基礎研究を行っている。行動センシングとAI技術を活用し、子どもの遊びを通じた学びの姿(主体的な育ちの状態)の可視化に向けた研究では、成果の一つとして、絵本の読み聞かせ参加時の子どもの視線の時間変化から、人による教材利用、デジタル型教材利用の双方の場合において、強い関心や飽きという特定の状態を推定できる可能性が示唆された。

「検証報告」について発表した。現在、同社は大学などとの連携し、子どもたちの主体的な育ちの状態の可視化に向けた基礎研究を行っている。行動センシングとAI技術を活用し、子どもの遊びを通じた学びの姿(主体的な育ちの状態)の可視化に向けた研究では、成果の一つとして、絵本の読み聞かせ参加時の子どもの視線の時間変化から、人による教材利用、デジタル型教材利用の双方の場合において、強い関心や飽きという特定の状態を推定できる可能性が示唆された。

還暦を祝う 記念の総会

近畿展の会(佐野健一会長)は、6月7日、会員制リゾートホテル「エクシブ白浜&アネックス」で総会を開催、4世代20人が参加した。

今年度は昭和39年生まれの還暦を祝う記念の大会として開催。

はじめに事務局の塩川浩二氏(コーラス)が会計報告を行い、佐野会長の挨拶、乾杯でスタートした。新入

恒例の卸商中堅幹部研修会

大阪卸商連合会(吉木会長)は、8月21、22日に大阪産業創造館で、恒例の卸商中堅幹部研修会を開催する。

同セミナーは、中堅幹部に求められる役割や職責を再認識し、リーダーシップを発揮しながら、部下の力を最大限に発揮させる育成のポイントや個人ワークやグループワークを交えながら、会得することを目的としている。

セミナーの特色は①多業種にわたる卸売業中堅幹部が参加する充実した研修②講義だけでなく、個人ワークやグループワークなどを取り入れた自主能力開発③エゴグラムによる自己研修と他己分析など。

講師は有限会社アクティ

ZOOMで 出展社説明会

神戸文具まつり神戸文具事務局協同組合(木下直樹理事長)は、12月20日に神戸文具まつり

会者への扇子の贈呈、還暦祝い贈呈、大阪府産業功労者表彰の栄に浴した佐野会長へのお祝い贈呈、ゴルフの結果発表、じゃんけん大会などの多彩な余興で盛り

大阪新歌舞伎座で観劇会

大阪交倶楽部(志方弘嗣理事長)は、6月3日に大阪新歌舞伎座で公演中の藤山直美、前川清が共演する「だいきん役者」を観劇した。

当日は昼の部に会員や随行者を含めて44人が参加し、亭主と芝居にほれ込んだ恋

